

第70回 維持管理研究会 議事録

1. 日時: 2017年 1月25日(水) 15:30-18:00

2. 場所: 富士通エフアイピー様 会議室

3. 出席者(敬称略) 16名

小田、金子、國貞、小林、佐藤、澤田、守護、菅谷、大塚、高橋、平川、柳谷、山下、葛西、
中谷(記)

4. 研究内容

山下さん(豊通)ファシリテータによる訓練(クロスロードゲーム)を体験し、マンネリ化しやすい自社の
訓練・演習に役立てることを目的に実施した。

①クロスロードゲームの特徴

カードゲームを通じ、参加者は、災害対応を自らの問題としてアクティブに考えることができ、かつ自分
とは異なる意見・価値観の存在への気づきも得ることができる。

防災に関する困難な意志決定状況を素材とすることによって、決定に必要な情報、前提条件について
の理解を深めることができる。

②概要

災害対応カードゲーム教材「クロスロード」は、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材である。
ゲームの参加者は、カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YES か NO かで自分の考えを
示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていく。

③目的

- ・災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を参加者同士共有すること。

災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解でないことも
ある。

- ・ゲームを通じ、それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること。また、そのために
は災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づくことが重要である。

④経緯及び活動状況

- ・災害対応カードゲーム教材「クロスロード」は、大地震の被害軽減を目的に文部科学省が進める「大
都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発されたもので、2004年7月に、最初となる「神戸
編・一般編」が完成した。

- ・「神戸編・一般編」は、同プロジェクトの中で実施した、阪神・淡路大震災において災害対応にあたった
神戸市職員へのインタビューの内容がもとになっており、実際の対応において神戸市職員が経験した
ジレンマの事例をカード化ものである。

- ・「神戸編・一般編」をもとに、その後「市民編」、「高知編」、「学校安全編」、「大学生編」、「要援護者編」
などが作成されている。「神戸編・一般編」と「市民編」は、京都大学生協を通じ一般にも販売されて

いる。

- ・「クロスロード」とは、「重大な分かれ道」、「人生の岐路」のことであり、「神戸編・一般編」では、「人数分用意できない緊急食料をそれでも配るか」、「学校教育の早期再開を犠牲にしても学校用地に仮設住宅を建てるか」、「事後に面倒が発生するかもしれないが、がれき処理を急ぐため分別せずに収集するか」など、神戸市職員が実際に迫られた難しい状況判断がカードとして出題される。
- ・ゲームの基本的な進め方は、カードの設問に対し、各自が YES か NO かで自分の意見を示す(または多数派を予測する)、多数決により勝者を決定する。また、設問に対する正解は示されておらず、なぜそのように考えたのかについて、参加者同士で意見交換することが重要なポイントとなる。
- ・ゲームには、設問についての解説資料や指導者用の進行マニュアルなどを含む解説書が添付されているほか、より学習効果を高めるための参考図書も発行されており、全国各地の自治体、学校、市民団体などが、それぞれの目的に応じたルール変更を加えながら、防災教育教材として活用している。

5. その他

次回開催予定

2017年 2月22日(水) 15:30~17:00

- ・近年の自然災害(地震,噴火,豪雨等)に関し、NIEDの情報収集についての解説、
- ・社会インフラや事業継続への影響におけるNIED視点からの注意事項など

講師:防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 水井様

以上